

# 2023 年度 理事長所信

公益社団法人 二本松青年会議所  
第 50 代 理事長 加藤 大史

<はじめに>

27 歳、私に、大きな人生の転機が訪れました。  
二本松青年会議所への入会です。

青年会議所に入会しなければ、先輩方をはじめ、こんなにも多くの尊敬する方々に出会うことはありませんでした。そして、志高くまちを良くしていこうと、切磋琢磨し運動を行っていくこの団体での活動は、私の人生を大きく変えることとなりました。

私は、二本松市本町で自営業を営む家庭に生まれました。私が小学生の頃は、本町も人通りが多く活気盛んだったことを覚えています。町場に住んでいたこともあり、家業を継ぐことになってからも、まちを良くしていこうと考える気持ちは常に持っていました。しかし、まちを良くしていくためにどうしたらいいのか、すべきことを実行することはできませんでした。青年会議所は、地域が抱える課題を学ばせてくれ、その解決のための運動を行わせてくれました。そして、二本松市本町という、限られた地域課題解決への考えだけでなく、二本松市の課題を考え解決していくことが、必要であるということを感じさせてくれました。広い視野を持つことの大切さを学ばせてくれました。

私たちの活動エリアとする、現在の二本松市は、平成の大合併により、旧二本松市、旧安達町、旧岩代町、旧東和町の 1 市 3 町が合併し、誕生しました。それぞれの地域には、歴史と伝統文化、自然があります。郷土愛を育むことができる、とても魅力あるまちです。

私は、このまちに住み暮らす一人でも多くの人に笑顔が広がる社会となるために、運動を行っていきます。

<平和で豊かな社会を実現するために>

新型コロナウイルス感染症、ロシアによるウクライナ侵攻、それらに影響され、社会が抱える問題は、私たちが生活する身近なところにも表れています。未来がどうなっているかは誰もわかりません。ただし、未来を創るための運動は、誰しもうるべきではないでしょうか。私たち青年会議所は、社会の課題を解決していかなければなりません。SDGs は、持続可能な社会を目指すために、作られました。まずは、この普遍的な目標を忘れず、私たちが行う運動と掛け合わせ、平和で豊かな社会を実現してまいります。

#### <仲間が増えたその先にある未来>

地域を変える原動力は、人です。今、青年会議所は会員の減少が課題となっています。人口減少や、経済の低迷に伴い、相対的に考えれば、必然といえるのかもしれませんが。最盛期では、60名を超える会員がいました。今はその3分の1に迫ろうとしています。しかし、想いを共感してもらえる人財は、必ずいます。私たちが行う事業や活動、また、それを通して得られる価値をわかりやすく伝え、入会へと導いていきます。

まちに熱くなれる、そんな格好いいことは他にありません。

私が、一つ自信をもって言えること。青年会議所の会員になれば、必ず、変わります。まず、自分が。そして、まちが。

仲間が増えたその先にある未来は、必ず、明るい豊かな社会があると確信しています。

#### <故郷を愛し、命を大切にするために>

二本松少年隊顕彰授業は、本年で、9年目を迎えます。その間、二本松少年隊の歴史を通し、郷土愛や、命の大切さを学んでいった子どもたちは、約3,000名を超えました。郷土愛とは、何か。命の大切さとは、何か。このことを考えていくことは、二本松市の人口減少の抑止に少なからず結びつくと考えます。そして、二本松少年隊が幼くして戦い、命を落としていった歴史を伝えていくことは、平和な社会を築くことに結びつくと考えます。二本松少年隊の行動は、物語ではなく、史実です。史実である重みも、真剣に考え、教え伝え、健全な二本松を繋いでいきます。

#### <創意と工夫、地域に根付いた事業>

東日本大震災、発災の年、私は、入会二年目でした。福島県は、原子力発電所の事故により、甚大な災害を被りました。人命、ふるさと、大切な多くを失い、福島県が悲しみに包まれていました。会員の一人ひとりが、少しでも心が安らぐ場所を作ろうと、震災復興に奮起していました。また、福島のを願う事業として、福幸祭が誕生しました。第1回福幸祭は、私の青年会議所運動の原点です。福幸祭は、創意と工夫を重ね、昨年は、12回目を迎え、地域で活躍する他団体が、それぞれに目的をもった事業を同時開催するという事業構築を行いました。本年は、更に二本松青年会議所と地域団体が密接に関わりあい相乗効果が生まれる、地域に根付いた事業を築いていきます。

#### <新たな地域課題を考える起点に>

二本松青年会議所は、公益事業を通して、市民に運動を発信しています。近年は、継続事業がその主体となっています。しかし、創立当初、継続事業は、存在していませんでした。地域課題を考え解決するために、何をすべきか、考え行動に移したその時の想いを、今、改めて考える必要があります。青年会議所は、市民に意識変革をもたらす団体です。本年は、新たな地域課題を考える起点となる行動を起こしていきます。

<50周年を迎えるにあたり>

「数百年の伝統を誇る我が郷土にも、時の流れと共に多難な時代が到来せんとしている。我等青年会議所は将来如何なる事態の発生にも冷静に対処し、我が郷土の健全なる発展の担い手とならんがため、相集い、相修練する場を見い出した。福島青年会議所を始めとする、県内先輩青年会議所の指導の下、66名の若人ここに結集し、英知と勇気と情熱をもって行動することを誓う。」

1974年2月24日、二本松青年会議所の運動が始まりました。

本年は、創立50周年を迎えます。

その歴史の中で、その時その時が、とても濃い時間であったことは、想像に難しくありません。だからこそ、今日まで繋いでくださった先輩方へ敬意を表し、また、幾多の困難の時に、快く二本松青年会議所へご支援くださった多くの皆様へ感謝を伝える一年としていきます。

<この先の50年>

2023年の二本松青年会議所は、英知と勇気と情熱を持った25名の青年でスタートします。創立を宣言した日から、脈々と引き継がれてきた半世紀の灯を消すことはできません。

これからも、地域から必要とされ続けられる団体として、「感謝。そして未来へ」一年目を出発します。

<p>現状分析</p>	<p>新型コロナウイルスと共存を決意した今、世界では戦争、日本では記録的円安と不安定な情勢が続いている中、予想されている大震災への不安も高まってきています。不安定な今だからこそ、人に頼るのではなく、自分や大切な人を守るため、サステイナブルな街を実現するために、優れた防災知識が必要であると考えます。また、我々二本松青年会議所では2023年度に創立50周年を迎えます。少子高齢化や、担い手不足から会員拡大にも陰りが見えていることから、二本松市の方々に青年会議所の活動を知っていただき、街の益となる必要があると考えます。</p>
<p>目指すべき目的</p>	<p>①二本松市としての課題を理解し、解決する方法を学ぶことで、より良い街づくりの足がかりとするため。                  ②防災について正しい知識を持ち、防災意識を高めることで、住み慣れた街で安心して生活することを目指すため。                  ③50周年の節目に、我々二本松青年会議所の運動や活動を多くの方に知ってもらい、会員拡大や、今後のJC活動の足掛かりとするため。                  ④新たな知識を身に付けることで、個々のスキルアップや、学びを得る喜びや意欲を養ってもらうため。                  ⑤二本松青年会議所として存続し、運動を継続させるため。</p>
<p>概要</p>	<p>①地域課題を解決する新たな事業の実施                  二本松市の課題を理解し、解決策の討論を行うことで市としての在り方を考え、持続可能な社会構築の学ぶ機会を提供します。                  ②社会福祉協議会と連携した市民防災意識の向上を図る事業                  協定を結んでいる社会福祉協議会と密な連携を図り、防災だけでなく、事後対応を含めた市民の災害意識が向上する機会を提供します。                  ③50周年記念事業の開催                  50周年を記念し、市民と青年会議所が一体となり、市民に笑顔が広がる事業を開催します。                  ④例会の実施                  会員の主体性と当事者意識を醸成するため例会を実施し、自ら行動を起こし積極的に協力できる会員を目指します。                  ⑤会員の拡大                  会員の増加を目指し、我々の行う事業や活動、それらを通して得られる価値を共有できる場を創出します。</p>
<p>SDGs</p>	<p><b>【3, 11, 16】</b></p>
	<p>①福島県全体、且つ二本松市の地域課題とも考えられる問題点に焦点をあて、有識者を招き知識習得と課題解決を考える機会の提供をします。                  ②社会福祉協議会で保有している知識や情報を共有いただき、市民の防災だけでなく、事後対応も含めた災害意識が向上する事業を行います。</p>

事業手法	<p>③未来ある子供たちのためにスポーツ事業を開催し、二本松青年会議所の活動を 広報すると共に、二本松の魅力を発信する事業を行います。</p> <p>④二本松市の地域課題の解決、市民防災意識の向上を図り、会員一人ひとりが街 づくりを考え、社会構築の一端となれる機会を持つ例会を実施します。</p> <p>⑤実施する例会に新入会員候補者を招待し、我々の活動や運動を共有できる機会を 設けます。</p>
パートナー	二本松市社会福祉協議会、二本松市、にほんまつDMO、各種団体

公益社団法人二本松青年会議所 2023年度 地域創造委員会予算書 内訳表  
2023年1月1日より2023年12月31日まで

事業名 科目名	公益事業		その他の事業		
	1	小計	1	2	小計
	50周年記念 事業		4月例会	11月例会	
④事業収益	1,050,000	1,050,000	10,000	10,000	20,000
事業繰入収益	300,000	300,000	10,000	10,000	20,000
登録料収益	600,000	600,000	0	0	0
懇親会費収益	0	0	0	0	0
広告料収益	0	0	0	0	0
販売収益	0	0	0	0	0
預り金収益	0	0	0	0	0
雑収益	150,000	150,000	0	0	0
⑤受取補助金等	0	0	0	0	0
国庫補助金	0	0	0	0	0
地方公共団体補助金	0	0	0	0	0
県サポート事業補助金	0	0	0	0	0
OB会補助金	0	0	0	0	0
二本松少年隊顕彰会補助金	0	0	0	0	0
補助金等交付業務受託金	0	0	0	0	0
国庫助成金	0	0	0	0	0
地方公共団体助成金	0	0	0	0	0
民間助成金	0	0	0	0	0
⑥受取負担金	0	0	0	0	0
受取負担金	0	0	0	0	0
⑦受取寄付金	0	0	0	0	0
受取寄付金	0	0	0	0	0
受取募金	0	0	0	0	0
⑧雑収益	0	0	0	0	0
受取利息収益	0	0	0	0	0
その他雑収益	0	0	0	0	0
經常収益計	1,050,000	1,050,000	10,000	10,000	20,000
(2) 經常費用					
①事業費	1,050,000	1,050,000	10,000	10,000	20,000
事業費	1,000,000	1,000,000	10,000	10,000	20,000
事業費繰入金		0			0
会場設営費	200,000	200,000	0	0	0
企画・演出費	400,000	400,000	0	0	0
本部団設営費	0	0	0	0	0
講師関係費	300,000	300,000	9,748	9,748	19,496
広報費	0	0	0	0	0
資料作成費	0	0	0	0	0
報告書作成費	0	0	0	0	0
懇親会費	0	0	0	0	0
渉外費	0	0	0	0	0
旅費交通費	0	0	0	0	0
参加記念品代	0	0	0	0	0
保険料	50,000	50,000	0	0	0
通信費	0	0	252	252	504
販売物品仕入	0	0	0	0	0
預り金	0	0	0	0	0
雑費	50,000	50,000	0	0	0
委員会運営費	0	0	0	0	0
事業予備費	50,000	50,000	0	0	0
収支差額	0	0	0	0	0

<p>現状分析</p>	<p>全国的に少子化が進む昨今、少子化問題が二本松でも同様起きているのが現実です。その中で二本松への関心が減り、学業等で県外へ進学し戻ってこない状況が一因として少子化・市民減少へ繋がっています。市内の学校へ通っている子供たちに二本松市への関心を持ってもらい、郷土愛を育み、子供たちに事業を通して歴史・伝統、自然溢れた魅力ある二本松を伝える必要があります。</p>
<p>目指すべき目的</p>	<p>①二本松少年隊を顕彰する事業を構築し、地域の魅力を認識させ、郷土愛を醸成するため ②会員の成長に繋がる例会を実施し、魅力ある団体にすることで会員拡大の一助とするため ③50周年記念事業を通し、LOMが一丸となり、報告と感謝をするため</p>
<p>概要</p>	<p>①二本松の歴史、二本松少年隊を通し小学生を対象に分かりやすい授業を構築し、各学校で講師として伝えることで、二本松への郷土愛・命の大切さを考えてもらい郷土愛を醸成させ、健全な二本松へ繋いでいきます。 ②入会候補者を誘えるような例会を設営するとともに会員の成長を促しJC運動活動に繋がる例会を実施します。 会員家族の支えがあつてのJC活動運動であることを踏まえ、家族向けの例会を実施します。 ③50周年事業を開催する中で、担当委員会の枠を超えて、協力・参加していき、参加していただいた方々に敬意と感謝を伝えていきます。</p>
<p>SDGs</p>	<p>【4, 16, 17】</p>
<p>事業手法</p>	<p>①市内16小学校6年生を対象に『二本松少年隊顕彰授業』を行い、PPTを精査し、理解度を更に深める事業にします。各小学校区で様々な魅力についてアンケートに入れ込み、再認識と新たな魅力発掘に繋がります。 ②副委員長が主導で例会を企画運営し、副委員長と委員の成長の場とし、候補者を委員会ごとに連れてきてもらうような例会を開催し、会員拡大に寄与します。 会員の成長に繋がる講師例会を実施し、会員一人ひとりのスキルを向上させます。 会員家族向けに移動例会を実施し、家族への日頃の感謝と懇親の場をつくります。 ③50周年特別委員会と協力し、周年事業を大成功に導き、委員会内で一人ひとりに協力を呼びかけLOMとして行う事業であることを認識させ、周年事業の担いを受け持つことで委員のモチベーション向上に繋がります。</p>
<p>パートナー</p>	<p>二本松市、二本松市教育委員会</p>

公益社団法人二本松青年会議所 2023年度 青少年育成委員会予算書 内訳表  
2023年1月1日より2023年12月31日まで

事業名 科目名	公益事業		その他の事業			小計
	1	小計	1	2	3	
	二本松少年隊 顕彰授業		3月例会	8月例会	10月例会	
④事業収益	1,000	1,000	0	100,000	9,000	109,000
事業繰入収益	1,000	1,000	0	40,000	9,000	49,000
登録料収益	0	0	0	60,000	0	60,000
懇親会費収益	0	0	0	0	0	0
広告料収益	0	0	0	0	0	0
販売収益	0	0	0	0	0	0
預り金収益	0	0	0	0	0	0
雑収益	0	0	0	0	0	0
⑤受取補助金等	61,000	61,000	0	0	0	0
国庫補助金	0	0	0	0	0	0
地方公共団体補助金	0	0	0	0	0	0
県サポート事業補助金	0	0	0	0	0	0
OB会補助金	0	0	0	0	0	0
二本松少年隊顕彰会補助金	61,000	61,000	0	0	0	0
補助金等交付業務受託金	0	0	0	0	0	0
国庫助成金	0	0	0	0	0	0
地方公共団体助成金	0	0	0	0	0	0
民間助成金	0	0	0	0	0	0
⑥受取負担金	0	0	0	0	0	0
受取負担金	0	0	0	0	0	0
⑦受取寄付金	0	0	0	0	0	0
受取寄付金	0	0	0	0	0	0
受取募金	0	0	0	0	0	0
⑧雑収益	0	0	0	0	0	0
受取利息収益	0	0	0	0	0	0
その他雑収益	0	0	0	0	0	0
経常収益計	62,000	62,000	0	100,000	9,000	109,000
(2) 経常費用						
①事業費	62,000	62,000	0	100,000	9,000	109,000
事業費	61,000	61,000	0	95,000	8,600	103,600
事業費繰入金	0	0	0	0	0	0
会場設営費	0	0	0	0	0	0
企画・演出費	55,000	55,000	0	0	3,300	3,300
本部団設営費	0	0	0	0	0	0
講師関係費	0	0	0	0	5,000	5,000
広報費	0	0	0	0	0	0
資料作成費	5,000	5,000	0	0	0	0
報告書作成費	0	0	0	0	0	0
懇親会費	0	0	0	0	0	0
渉外費	0	0	0	0	0	0
旅費交通費	0	0	0	95,000	0	95,000
参加記念品代	0	0	0	0	0	0
保険料	0	0	0	0	0	0
通信費	1,000	1,000	0	0	300	300
販売物品仕入	0	0	0	0	0	0
預り金	0	0	0	0	0	0
雑費	0	0	0	0	0	0
委員会運営費	0	0	0	0	0	0
事業予備費	1,000	1,000	0	5,000	400	5,400
収支差額	0	0	0	0	0	0

<p>現状分析</p>	<p>新型コロナウイルス感染症、若年層労働者の減少や経済の低迷などにより市民の不安はより一層強まっています。こうした危機的状況の中で諸問題に真摯に取り組み、LOMでは持続可能な組織づくりを実行し、会員の活動意欲を向上させる組織運営を図ることが必要となります。</p>
<p>目指すべき目的</p>	<p>①2022年度の事業報告を受けて2023年度の新たな事業計画を共有し、会員が同じ志を持ち特別会員にも目的共有を図ることができ、二本松青年会議所が一致団結して一年間間を通しJC運動をしていくための時間とするため。                  ②2023年度体制を内外部に発信すると共に運動の指針を表明する事により情報の共有、会員と特別会員の親睦を深める時間を提供し、今後更なる連携を図るため。                  ③新入会員がスキルアップすることで、将来のLOMの発展に繋げていくため。                  ④2023年度の方針、組織体制、各委員会事業計画を常に確認することができるツールを作成することによって、青年会議所会員としての意識向上を図るため。                  ⑤JC運動・JC活動を正しく発信し、地域住民との信頼関係を築くため。                  ⑥二本松青年会議所の活動に同じ志がもてる会員を増やし、組織の強化と地域の発展へと繋げるため。</p>
<p>概要</p>	<p>①総会の実施                  1月総会では2022年度の事業報告と2023年度の方針を共有し、9月総会では次年度の体制を報告する機会とします。                  ②新年会の開催                  外部に二本松青年会議所の運動の指針を示すと共に創立50周年に向けて会員と特別会員の交流する機会をつくり、多様な情報を共有する場を提供する機会とします。                  ③新入会員の育成                  例会や委員会の事業への参加や新入会員セミナーを開催し、経験やスキルアップ向上を図る機会とします。                  ④会員名簿の作成                  2023年度の方針、組織体制、各委員会の事業計画、会員情報等を掲載し、また会員・特別会員の情報を共有する機会とします。                  ⑤ホームページ・SNS等の活動による広報活動                  二本松青年会議所の活動内容を地域に向けて発信し、我々の運動への理解と賛同していただく機会とします。                  ⑥会員の拡大                  現役会員がまず青年会議所の役割を理解し、その思いに賛同できる会員を増やす。</p>
<p>SDGs</p>	<p><b>【4, 8, 10, 16, 17】</b></p>
	<p>①事前の打ち合わせ、準備段取りを綿密に行い、多くの会員に参加を呼びかけ、当日は円滑に議事進行します。                  ②会員はもちろん、来賓や特別会員の多くの方にもご参加いただけるよう、早めに開催</p>

事業手法	詳細を周知し参加を促すと共に事前準備等を綿密に行い新年会を開催します。
	③例会や委員会活動の詳細を早めに周知し、多くの新入会員に参加してもらいます。
	④名簿の情報を確認し、会員にはデータでの配布、特別会員にはA5サイズの冊子を作成し配布します。
	⑤ホームページ・SNS等を積極的に運用し、二本松青年会議所の活動を若者をはじめ幅広い層の方々に認知してもらえるよう一年間を通し工夫し、常に情報を発信します。
	⑥二本松青年会議所の入会のメリットや会得できるものを会員が認識したうえで、入会の呼びかけを行い、また、会員拡大のためのPR動画を作成し、会員拡大の一助となるようにします。
パートナー	二本松青年会議所OB会
	福島ブロック協議会
	各種団体

公益社団法人二本松青年会議所 2023年度 総務広報委員会予算書 内訳表  
2023年1月1日より2023年12月31日まで

事業名 科目名	その他の事業				小計
	1	2	3	4	
	会員名簿作成	7月例会 (ブロック大会)	12月例会 (卒業式)	(公社)二本 松青年会議 所PR動画作 成	
④事業収益	1,000	185,000	47,000	3,000	236,000
事業繰入収益	1,000	46,000	47,000	3,000	97,000
登録料収益	0	139,000	0	0	139,000
懇親会費収益	0	0	0	0	0
広告料収益	0	0	0	0	0
販売収益	0	0	0	0	0
預り金収益	0	0	0	0	0
雑収益	0	0	0	0	0
⑤受取補助金等	52,000	1,000	0	147,000	200,000
国庫補助金	0	0	0	0	0
地方公共団体補助金	0	0	0	0	0
県サポート事業補助金	0	0	0	0	0
OB会補助金	52,000	1,000	0	147,000	200,000
二本松少年隊顕彰会補助金	0	0	0	0	0
補助金等交付業務受託金	0	0	0	0	0
国庫助成金	0	0	0	0	0
地方公共団体助成金	0	0	0	0	0
民間助成金	0	0	0	0	0
⑥受取負担金	0	0	0	0	0
受取負担金	0	0	0	0	0
⑦受取寄付金	0	0	0	0	0
受取寄付金	0	0	0	0	0
受取募金	0	0	0	0	0
⑧雑収益	0	0	0	0	0
受取利息収益	0	0	0	0	0
その他雑収益	0	0	0	0	0
經常収益計	53,000	186,000	47,000	150,000	436,000
(2) 經常費用	0	0	0	0	0
①事業費	53,000	186,000	47,000	150,000	436,000
事業費	51,700	184,880	45,500	148,880	430,960
事業費繰入金	0	0	0	0	0
会場設営費	0	0	27,000	0	27,000
企画・演出費	0	184,000	17,000	0	201,000
本部団設営費	0	0	0	0	0
講師関係費	0	0	0	0	0
広報費	0	0	0	0	0
資料作成費	51,700	0	0	148,000	199,700
報告書作成費	0	0	0	0	0
懇親会費	0	0	0	0	0
渉外費	0	0	0	0	0
旅費交通費	0	0	0	0	0
参加記念品代	0	0	0	0	0
保険料	0	0	0	0	0
通信費	0	880	1,500	880	3,260
販売物品仕入	0	0	0	0	0
預り金	0	0	0	0	0
雑費	0	0	0	0	0
委員会運営費	0	0	0	0	0
事業予備費	1,300	1,120	1,500	1,120	5,040
収支差額	0	0	0	0	0

<p>現状分析</p>	<p>域内外に向けて二本松の魅力を届けられる最大のものである福幸祭は、併せて青年会議所の運動・活動を認知してもらうための最大の機会となります。これまで行ってきた事業の継承や、二本松少年隊の悲劇の史実を多くの方々に繋ぎ、感謝する心を養いながら新たな発見や気づき・視点を混ぜ合わせ、地域と会員が明るい未来へ大きな一歩を踏み出せるように動くことが必要となります。</p>
<p>目指すべき目的</p>	<p>①二本松への誇りと愛着を持った人づくりを行い、地域の未来を考える同志育成のため                  ②愛する故郷のために戦った二本松少年隊への顕彰を行い、日頃から身近な人を敬い感謝する心づくりのため                  ③二本松少年隊隊士の慰霊と鎮魂の願いを込め、市民が二本松少年隊の想いに触れる機会づくりのため                  ④住み続けられるまちづくりをテーマに、日常生活において、普段から気軽に取り組むことができるSDGsへの意識づくりのため                  ⑤明るい未来づくりの一助となる新たな手法を学び、地域と会員が実践することで新たな気づきや発見を習得するため</p>
<p>概要</p>	<p>①市民・団体が活躍できる福幸祭の開催                  市民と青年会議所が一体となり、二本松の宝を届ける福幸祭を開催し、JC運動への理解を深めます。                  ②二本松少年隊の顕彰                  二本松少年隊の悲劇を史実として継承し、二本松の未来を担う子どもたちへ生きることの尊さを考える機会とします。                  ③二本松少年隊墓所清掃の実施                  二本松少年隊を顕彰する団体として市内の各地墓所を清掃し、二本松少年隊へ慰霊と哀悼の意を表します。                  ④SDGs推進                  教育、環境保護、文化継承などの視点から、各所において日常生活で一人ひとりが取り組むことができる、実践的且つ先駆的な推進を図ります。                  ⑤例会の実施                  5月例会では、新たな発見や気づきを得るために、域内外で活躍する人財を招き講演を行い、学ぶ場を作ります。</p>
<p>SDGs</p>	<p>【4, 7, 8, 11, 15, 17】</p>
	<p>①2023年参加計画総数4000人（前年度の計画総数及び実績値を参考に算出しています）                  新たな団体との関係性構築を追い風に、毎年楽しみにしてくれている市民に加え、これまで足を運ぶことがなかった市民も参加、活躍できる事業を計画します。                  主にSNSなどで福幸祭の情報を発信し、域内外への周知を行います。                  ②福幸祭のステージ発表で二本松少年隊の顕彰を行っている団体に公演を</p>

事業手法	していただきます。
	③墓所清掃では市内の少年隊士の墓所、関係各所の清掃を行い少年隊への追悼と敬意を表します。
	④福幸祭のブースでは、来場者にマイボトル・マイカトラリーの持参を促し、プラスチックごみの削減を推進します。またお仕事体験ブースでは各企業が行う取り組みについても説明してもらいます。
	⑤5月例会では、新たな発見や気づきを得るために、地域催事に知見のある方を招き先駆的な手法について講演してもらいます。
パートナー	二本松市役所、二本松市内各種団体
	一般社団法人にほんまつDMO、二本松の四季花火、そらのまちマルシェ
	市内各企業

公益社団法人二本松青年会議所 2023年度 福幸祭特別委員会予算書 内訳表  
2023年1月1日より2023年12月31日まで

事業名 科目名	公益事業			その他の事業	
	1	2	小計	1	小計
	福幸祭	墓所清掃		5月例会	
④事業収益	3,791,000	1,000	<b>3,792,000</b>	5,000	<b>5,000</b>
事業繰入収益	41,000	1,000	42,000	5,000	5,000
登録料収益	0	0	0	0	0
懇親会費収益	0	0	0	0	0
広告料収益	3,600,000	0	3,600,000	0	0
販売収益	0	0	0	0	0
預り金収益	0	0	0	0	0
雑収益	150,000	0	150,000	0	0
⑤受取補助金等	562,000	13,000	<b>575,000</b>	0	<b>0</b>
国庫補助金	0	0	0	0	0
地方公共団体補助金	400,000	0	400,000	0	0
県サポート事業補助金	0	0	0	0	0
O B会補助金	0	0	0	0	0
二本松少年隊顕彰会補助金	162,000	13,000	175,000	0	0
補助金等交付業務受託金	0	0	0	0	0
国庫助成金	0	0	0	0	0
地方公共団体助成金	0	0	0	0	0
民間助成金	0	0	0	0	0
⑥受取負担金	0	0	<b>0</b>	0	<b>0</b>
受取負担金	0	0	0	0	0
⑦受取寄付金	200,000	0	<b>200,000</b>	0	<b>0</b>
受取寄付金	200,000	0	200,000	0	0
受取募金	0	0	0	0	0
⑧雑収益	0	0	<b>0</b>	0	<b>0</b>
受取利息収益	0	0	0	0	0
その他雑収益	0	0	0	0	0
経常収益計	4,553,000	14,000	4,567,000	5,000	5,000
(2) 経常費用					
①事業費	4,553,000	14,000	<b>4,567,000</b>	5,000	<b>5,000</b>
事業費	4,345,500	13,550	4,359,050	4,852	4,852
事業費繰入金			0		0
会場設営費	2,200,000	0	2,200,000	0	0
企画・演出費	1,370,500	13,000	1,383,500	1,600	1,600
本部団設営費	0	0	0	0	0
講師関係費	0	0	0	3,000	3,000
広報費	200,000	0	200,000	0	0
資料作成費	400,000	0	400,000	0	0
報告書作成費	0	0	0	0	0
懇親会費	0	0	0	0	0
渉外費	60,000	0	60,000	0	0
旅費交通費	0	0	0	0	0
参加記念品代	0	0	0	0	0
保険料	5,000	0	5,000	0	0
通信費	60,000	550	60,550	252	252
販売物品仕入	0	0	0	0	0
預り金	0	0	0	0	0
雑費	50,000	0	50,000	0	0
委員会運営費	0	0	0	0	0
事業予備費	207,500	450	207,950	148	148
収支差額	0	0	0	0	0

公益社団法人二本松青年会議所 50周年特別委員会 事業計画	
専務理事 深谷 勇人	
委員長 新野 成輝	
現状分析	1974年の創立以来、歴代の先輩方が脈々と繋いでくださった二本松青年会議所は本年50周年を迎えます。ここ二本松においても、人口減少をはじめとした地方に共通する課題は山積していますが、創立以来50年に渡りメンバーの発展と成長を通して地域課題の持続的な解決を続けてきた私たち二本松青年会議所は、笑顔が広がる社会を創造するために存在し続けなければなりません。
目指すべき目的	①現役メンバーが二本松青年会議所の50年の歩みを知り、今後の当LOMのあるべき姿を見出すため ②50周年を記念し、創立以来の歴代の先輩方のご尽力と、これまでご支援・ご協力をいただいていた方々に感謝を伝えるため ③半世紀の歩みを記録して、後の世代がその歴史を容易に振り返って今後のJC運動・活動に活かせるようにするため
概要	①例会の実施 50周年を迎えるにあたり、LOMの歴史とその功績を知るメンバーが少なくなっているため、創立以来50年の歩みを振り返る機会を設けます。 ②50周年記念式典・祝賀会の開催・記念品の作成 創立50周年を祝して式典・祝賀会を開催し、また二本松らしい記念品を用意して参加者・関係者にお渡しします。 ③50周年記念誌の発行 40周年記念誌まで定期的に記念誌は作られていますが、それ以降の会員にはその存在もあまり知られていないため、50周年の機会に半世紀をひと目で見通せる記念誌を作成します。
SDGs	【11, 17】
事業手法	①2月例会として、50年間のLOM事業を掘り起こし、次の50年を見据えた観点から主要な事業について、当時を知るOBにも取材してまとめることで、50年の歩みを把握します。また、まとめの作業を通して、当時と現在の課題や手法の違いを学ぶことで、今後の事業構築にも活かせる例会を開催します。 ②LOM OBをはじめ、日頃からご支援ご協力をいただいている行政や地域の各種団体、日本・地区・ブロック・県内17LOMをお招きして二本松青年会議所50年の歩みを知っていただき、歓待します。また、二本松の魅力発信を兼ねた記念品を作成して参加者・関係者にお渡しします。 ③直近10年だけでなく、50年の歩みが俯瞰できて、次の50年に向けてJC運動の意識高揚に繋がる内容の記念誌を作成します。
パートナー	二本松青年会議所OB会

公益社団法人二本松青年会議所 2023年度 50周年特別委員会予算書 内訳表  
2023年1月1日より2023年12月31日まで

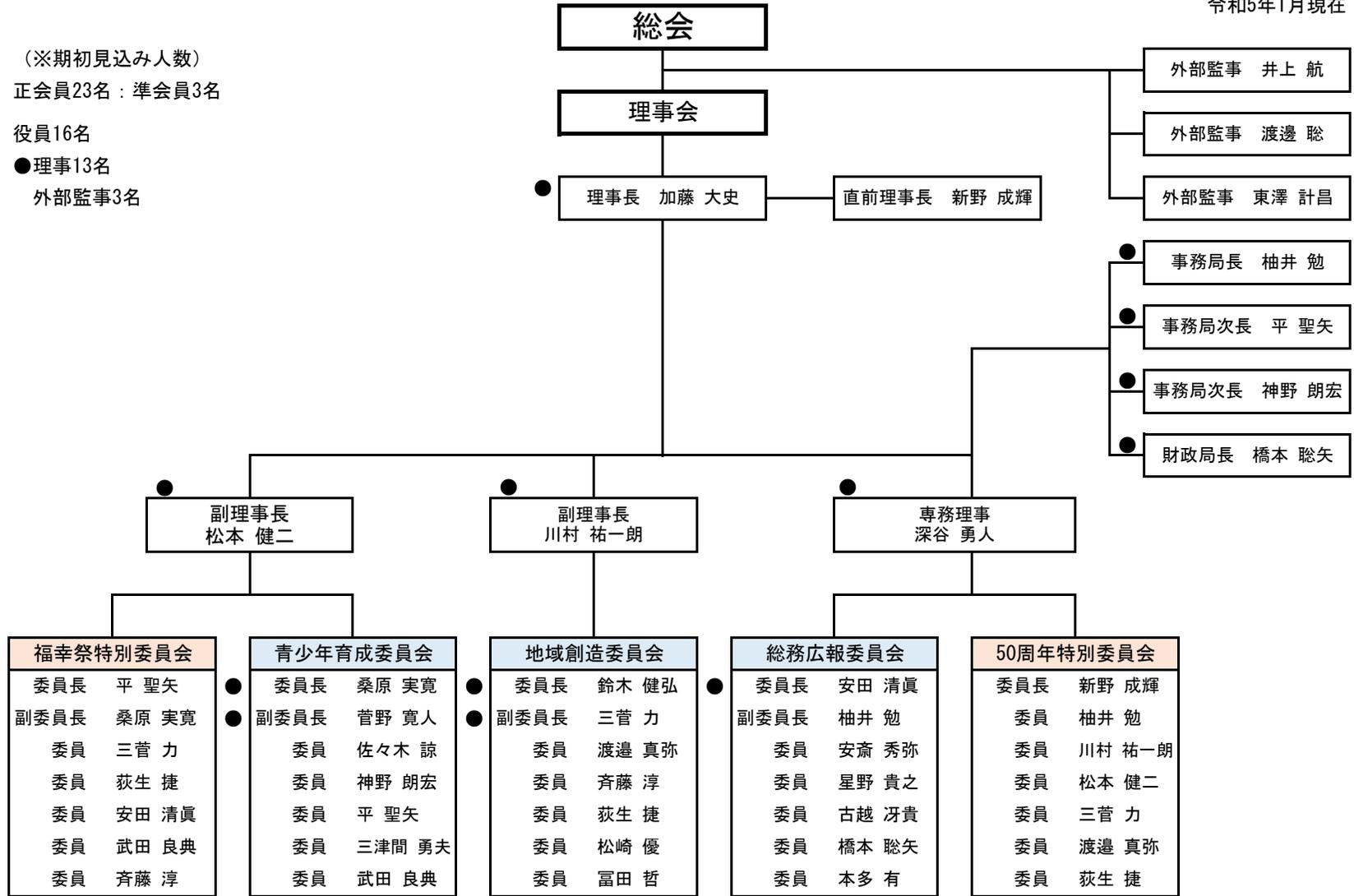
事業名 科目名	その他の事業				小計
	1 ロゴマーク 作成	2 2月例会	3 50周年 式典・記念品 作成	4 50周年 記念誌作成	
④事業収益	55,000	0	845,000	750,000	1,650,000
事業繰入収益	0	0	0	0	0
登録料収益	55,000	0	845,000	750,000	1,650,000
懇親会費収益	0	0	0	0	0
広告料収益	0	0	0	0	0
販売収益	0	0	0	0	0
預り金収益	0	0	0	0	0
雑収益	0	0	0	0	0
⑤受取補助金等	0	0	0	0	0
国庫補助金	0	0	0	0	0
地方公共団体補助金	0	0	0	0	0
県サポート事業補助金	0	0	0	0	0
OB会補助金	0	0	0	0	0
二本松少年隊顕彰会補助金	0	0	0	0	0
補助金等交付業務受託金	0	0	0	0	0
国庫助成金	0	0	0	0	0
地方公共団体助成金	0	0	0	0	0
民間助成金	0	0	0	0	0
⑥受取負担金	0	0	0	0	0
受取負担金	0	0	0	0	0
⑦受取寄付金	0	0	0	0	0
受取寄付金	0	0	0	0	0
受取募金	0	0	0	0	0
⑧雑収益	0	0	0	0	0
受取利息収益	0	0	0	0	0
その他雑収益	0	0	0	0	0
経常収益計	55,000	0	845,000	750,000	1,650,000
(2) 経常費用					
①事業費	55,000	0	845,000	750,000	1,650,000
事業費	55,000	0	810,000	721,000	1,586,000
事業費繰入金					0
会場設営費	0	0	200,000	0	200,000
企画・演出費	55,000	0	145,000	0	200,000
本部団設営費	0	0	0	0	0
講師関係費	0	0	0	0	0
広報費	0	0	45,000	0	45,000
資料作成費	0	0	60,000	720,000	780,000
報告書作成費	0	0	0	0	0
懇親会費	0	0	0	0	0
渉外費	0	0	0	0	0
旅費交通費	0	0	0	0	0
参加記念品代	0	0	350,000	0	350,000
保険料	0	0	0	0	0
通信費	0	0	10,000	1,000	11,000
販売物品仕入	0	0	0	0	0
預り金	0	0	0	0	0
雑費	0	0	0	0	0
委員会運営費	0	0	0	0	0
事業予備費	0	0	35,000	29,000	64,000
収支差額	0	0	0	0	0

Table with columns for financial categories (e.g., 経常増減の部, 経常費用, 経常収益計), months (1月 to 12月), and various financial metrics. Includes sub-sections like 1. 経常増減の部 and 2. 経常費用.

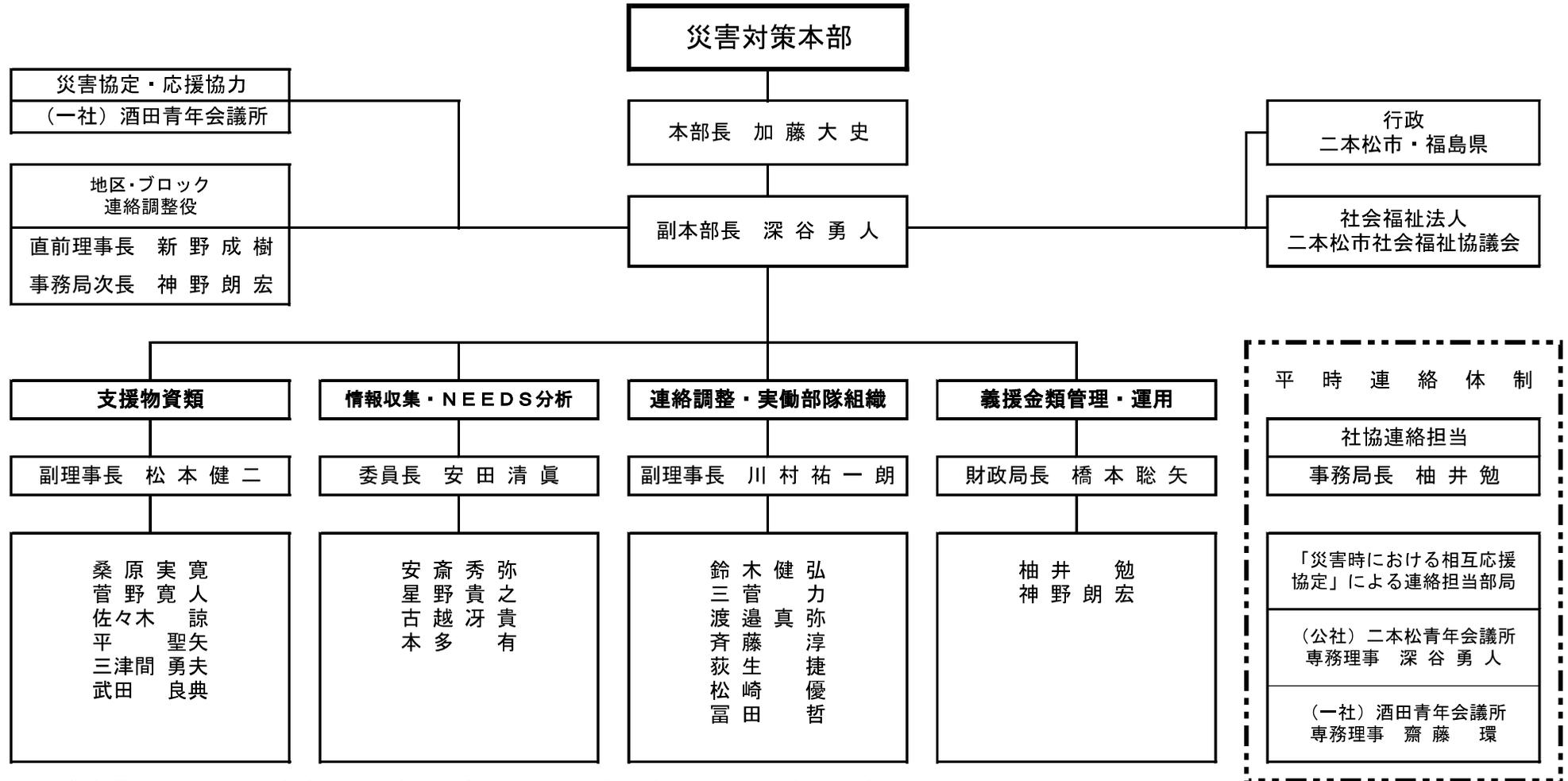
公益社団法人二本松青年会議所 2023年度 組織図 (案)

令和5年1月現在

(※期初見込み人数)  
 正会員23名：準会員3名  
 役員16名  
 ●理事13名  
 外部監事3名



公益社団法人二本松青年会議所 2023年度 災害発生臨時組織図（案）



※企業会員については年度途中での変更があった場合は新任者が引き継ぐものとする。